

## 19. 七宝焼

注) 七宝焼を行うには指導員が必要です。



### 1. ねらい

七宝焼を「創る」という活動を通し創作活動の喜びを味わい、美しいものを創る感性を育み、生活に潤いを与えてくれる手づくり作品のよさを気づかせます。

### 2. 時期・時間・人数

- ・年間を通じて活動可能
- ・2～3時間
- ・20人程度（クラフトホール）

### 3. 準備（よくお確かめください） ●は当所売店で購入してください（要事前注文）

自然の家で貸し出しできる物	利用者に準備する物
電気炉 火ばさみ ヤスリ ※指導員が扱います  竹グシ 竹べら 接着剤 スチールウール サンドペーパー ピンセット 金網 金ブラシ	●七宝素材 ●釉薬・七宝絵の具セット ウエス（布） ティッシュペーパー 水入れ （注）七宝素材の価格は、材料と釉薬等の消耗品込みです。  ※材料の注文は <u>ご利用2週間前までに</u> お願いします。

### 4. 活動内容

#### （1）作成できる物

○ブローチ ○ペンダント ○キーホルダー

#### （2）活動の流れ

場所 クラフトホール

内 容	時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室に連絡して用具の貸し出しを受けます。</li> <li>・作りかたを説明します（指導員が行います）</li> <li>・制作</li> <li>・後始末とまとめ</li> <li>・事務室に連絡して用具返納の確認を受けます。</li> </ul>	10分 20分 70～90分 10分 10分

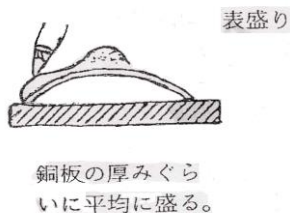
#### （3）計画

- ①製作時間は2時間30分～3時間が望ましいので、半日程度の研修とします。
- ②1回の実習人員は20人程度。これを超える場合は他の活動と組み合わせ、ローテーション方式とするか、選択制にします。
- ③あらかじめ班編成（5～8人）を決めておきます。
- ④素材は食堂売店で一括して購入しておきます。
- ⑤技法はいろいろあるので個々の製作意欲を高めておきます。
- ⑥配色やデザインは事前に考えておきます。

## (4) 製作工程

工 程	内 容	留 意 点
1 素材の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規定の材料を使用します</li> </ul>	
2 配色とデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自のアイデアにまかせます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創意・工夫を大切にしてください</li> </ul>
3 両面処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スチールウール（ボンスター）でみがきます</li> <li>・ 水洗いはピンセットでつまんで洗います</li> <li>・ ティッシュペーパーで拭きます</li> <li>・ 台紙の上に置きます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処理が不十分だと発色や釉薬の盛付けが悪くなるのでていねいにみがいてください</li> <li>・ 水洗いし、ふき取り後は素手で触らないようにしてください</li> </ul>
4 釉薬の盛付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表面に釉薬を盛付けます（図1）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釉薬は、透明色と不透明色の2種類があり、表面に1mm以内の厚さに全体にむらなくぬります</li> <li>・ 好みでフリット（ガラスのかたまり）を釉薬が乾燥しない内にのせます。端にのせると落ちやすい、又、3倍に膨脹するので5mm位の大きさを限度にします</li> </ul>
5 乾燥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 炉上で乾燥させます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分に乾燥させてください</li> </ul>
6 焼成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静かに炉に入れます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 炉の温度800℃以上を確認して下さい</li> <li>・ 指導員が行います。</li> </ul>
7（二度焼成）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釉薬の盛付け後に焼成を繰り返します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温度と時間を確認してください</li> </ul>
8 仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動ヤスリ・接着剤で仕上げます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品はていねいに扱ってください</li> </ul>

図 1



## 5. 留 意 点

- ① 釉薬は、色の濁りの原因になる微粉が混入しているので、使用前に必ず水洗いし取り除く。
- ② 色を変えるときは、竹べらや筆を洗ってから次の色に移りましょう。
- ③ 電気炉の温度は800度以上になります。やけどには特に注意が必要です。  
原則として、炉への出し入れは指導員が行います。
- ④ 作品製作後、使用した用具類の返納を完全に行いましょう。
- ⑤ 後片づけとゴミの処理、清掃を行いましょう。

### 無線七宝の技法

●一色盛り



ホセで絵の具をすくい取り、素材の上に1mmぐらいの厚みに均一に盛って焼成するか、C.M.C液を霧吹きで素材に吹きかけ、乾いた絵の具をふるいで素材全面に平らにかけ、乾燥してから焼成します。

●部分盛り



絵の具を素材の表面全部に盛らず、部分的に盛って焼成します。銅や丹銅の場合は、絵の具を盛らない部分には酸化膜ができますので、それを酸洗い剤にひたして取り除き、全面に透明絵の具を盛って再度焼成します。

●描き割り



絵の具を盛り、焼成した上に色調の異なる輸入りの絵の具を盛って、乾いたら針等で表面をひっかいて図柄をつくり焼成します。下地は透明の黒や濃紺の濃い色を用いると効果的です。

●多重盛り



絵の具を重ねて焼く技法が多重盛りです。下地に不透明絵の具を置き、その上に透明絵の具を重ね焼きすると、下地の不透明が透けて、深みのある発色ができます。

●多色盛り



各種の絵の具を隣り合わせて盛って、幾何学模様や具象的形態を焼成する技法です。素材の表面に下描きし、各色の絵の具をていねいに盛って乾燥させ、焼成します。

●噴ゆう



不透明絵の具を下盛りして焼成し、その上に透明色を盛り、高温焼成(900℃)しますと、下の不透明絵の具が窯変により噴き出て、点々模様になります。温度や透明絵の具の厚さにより模様変化します。

●マール



素材に何色かの絵の具を盛り焼成中にマール棒で絵の具をかき回し、お互いの色が線状に流れた大理石のような美しい模様をつくる技法です。

●フリット



絵の具を盛って焼成した後、透明フリットに濃い目の糊をつけたものをのせて焼成します。絵の具とフリットを同時に焼成することもできます。

### 銀ぱく有線七宝の作り方

①素材にはく押しをする



荒目のサンドペーパーの上で、銀ぱくを指で押して細かい空気穴をあけ、銀用絵の具で焼成した素材を包みこみ、10秒程焼成します。取り出した素材をすばやくガラスワールで押さえ、銀ぱくを密着させます。

②銀線で図柄を作る



図柄を原寸大に描き、その模様に合わせて銀線を切っておきます。はく押しが済んだ素材に銀用白透絵の具を薄く盛り、乾かないうちに銀線を植えつけるように置き、浮いている銀線はピンセットで押さえ、焼成します。

③絵の具を盛り、焼成する



①・②で用いた絵の具はそれぞれ銀ぱく・銀線を素材面に固定するための物ですから、最後に作品の表面に出る色を透明絵の具で盛ります。七宝炉の上で十分乾燥させ、焼成します。

④表面を加工し、仕上げる



銀線と同じ高さに絵の具を盛るときは、白透を盛って同じ高さになると、深い調子で仕上がります。銀線にかぶせるように絵の具を盛って仕上げるときは、ヤスリや砥石などで平らにし、よく水洗いして軽く焼成します。